

授業科目          応用公衆栄養学実習

【担当教員名】 村山伸子		対象学年	4	対象学科	健康
		開講時期	後期	必修・選択	選択
		単位数	2	時間数	90
<p>【一般目標：G I O】 公衆栄養学Ⅰ、Ⅱ、公衆栄養学実習Ⅰ、Ⅱで学習したことを総合し、現場に適用できるために、さらに高度な能力をつけることを目的とする。公衆栄養学の目標は、「地域や職域等の健康・栄養問題とそれを取り巻く自然、社会、経済、文化的要因に関する情報を収集・分析し、それらを統合的に評価・判定する能力を養う。また、保健・医療・福祉・介護システムの中で、栄養上のハイリスク集団の特定とともにあらゆる健康・栄養状態の者に対し適切な栄養関連サービスを提供するプログラムの作成・実施・評価の総合的なマネジメントに必要な理論と方法を修得する。さらに各種サービスの調整、人的資源など社会資源の活用、栄養情報の管理、コミュニケーションの管理などの仕組みについて理解する。」である。この中でも特に、栄養アセスメントに焦点をあて、実際の社会の公衆栄養の現場での栄養アセスメント（調査）手法を実習する。</p>					
<p>【行動目標：S B O】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 栄養アセスメントの調査の目的を明確にできる。</li> <li>2. 健康・栄養課題とその要因を把握するための調査の枠組みが作成できる。</li> <li>3. チームの中で責任をもって調査を実施できる。</li> <li>4. 集団の調査結果について解析ができる。</li> <li>5. 適切な解釈と判断・報告書作成ができる。</li> <li>6. 課題への対策として地域での保健・医療・福祉の連携のしくみについてイメージできる。</li> </ol>					
回数	授業計画又は学習の主題	SBO			
		番号	学習方法	学習課題又は備考	担当教員
	事前オリエンテーション 栄養アセスメントの対象と目的を設定する	1		学外での実習	
	調査項目と方法の決定、調査票の作成、調査の準備	2			
	調査の実施	3			
	調査結果の解析	4			
	調査結果を診断する、報告書の作成	5			
	アセスメント結果の活用事例として、地域での保健・医療・福祉の連携の中での栄養活動の実践事例を見学する	6			
【使用図書】	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格・その他>	
教科書	未定				
参考書					
その他の資料					
【評価方法】 実習時の取り組み姿勢50%、 課題レポート50%		【履修上の留意点】 守秘義務等、社会的な責任感をもって取り組むこと。			